

図書館クイズ

地図の中にあらわされるたてものの記号。さて、図書館をあらわすのはどれ?①文 ②血 ③

わたしと読書

すてきな本との出会い

古川 一男

我が家の本棚に、何冊かの絵本がある。その中に、背表紙がくたくたになった一冊がある。娘が生まれたときに、妻と一緒にさがして買求めた絵本。書名は「いない いない ばあ」。

「たん、たちまち二十年前にタイムスリップする。娘が生まれてからは、娘を寝かせるときが我が家の読書タイムとなった。妻が「いない いない ばあ」と読むと、キャッキョッと娘の笑い声。このやりとりが何度も同じように繰り返された。最後のページを読み終えると、「もういつかい、おねがい。」と娘はせがむ。「じゃあ、もう一回だけだよ。」と妻。そして、二回目が始まる。二回目が終わると、娘は満足して幸せそうに眠りについた。そんな、本を仲立ちとした妻と娘のやりとりが私にはとても心地よかった。毎晩、親子で川の字となって、一緒にいろいろな絵本の世界を楽しんだ。今は、その娘も二十三歳になった。しかし、その時の思い出は一冊の絵本から鮮明によみがえる。娘のお気に入りの一冊の絵本。片手に乗る小さな絵本。我が家にとっては両手でも抱えきれないほどの思い出が詰まった心のアルバムである。

大村はまの「教えるということ」という本を、私は仕事机に並べている。教師になりたての若かった頃、一生懸命に線を引きながら何度も読んだ一冊である。「へい人」なんてあたりまえ「子どもを一人で生き抜く人間に鍛えあげるのが自分の職業」……。教師になったばかりの私は、筆者の二つ二つの言葉に刺激を受け、昨日よりもよい教師になってやるぞと自らを鼓舞した。しかし、不思議である。年齢を重ねても、ふと手にしたくなる。何度読み返してもこの書には新鮮な出会いがある。同じ言葉でも、その時その時で、違った重みを感じる。読むたびに背筋が伸びる。初心に立ち返ることができる。いつでも身近に置いておかないと落ち着かない本となった。

本には、読み手の思いが宿る。本そのものは全く変わらないが、それを手にする読み手は年々変わっていく。だから、読むたびにいつも違う感覚を味わう。発見がある。年を重ねるにつれ、私の思いが宿った本が、本棚に少しずつ増えていった。すてきな本との出会い。それは、幸せである。

古川さんは、この三月まで教育委員会の学校教育課に、現在は可茂教育事務所にお勤めで、美濃加茂市の子どもの成長を見守り続けておられます。

夏休みは図書館へ行こう！
読書や学習にも使える机もあるし、静かで、涼しくて、ゆったりとすごせます。子ども用の本も本棚からあふれるほどたくさんあります。(貸し出し1人5冊、2週間)カウンターでは、調べたいことなどの相談にものつてもらえます。☆子どもたち向けの図書館祭りもあります。

山手小学校

ポニポロロニ



山手小学校では、毎月一回、お昼休みの二十分を利用して音楽室で絵本の読み聞かせをしています。

降つて外で遊べない日のお昼休みに、親たちが学校に来て絵本を読んであげていたことから始まりました。

現在は月に一度、日にちを決めて行っています。メンバーは十名で、山手小の親御さんであったり地域の方であったり、皆絵本への思い入れがある方たちばかり。細く長くをキープして今年で十四年目を迎えます。

絵本の題材は自由で、季節に合ったものや、自宅にあるお気に入りの絵本を持参してもいいし、図書館で大型絵本や紙芝居を借りてきて大がかりな企画にしてもよい……。とにかくやる側も楽しんで、子どもたちにパワーをもらいながら活動しています。

お客さんは殆ど低学年の子たちですが、廊下から覗く?高学年の子たちにも入ってきてもらいたいなとひそかに願いながら、心休まる空間をこれからも作っていききたいなと思っています。

「ポニポロロニって、何の言葉?」
絵本「おじさんのかさ」(作:佐野洋子)に出てくる言葉です。おじさんの一番の宝物、それは立派な傘。でも、大切にすくすく、一度も開いたことがありません。ところがある日、小さな男の子と女の子が傘をさしながら、それはもつ楽しんで歌っているのを聞いてしまいます。「あめがふったらポニポロロニ、あめがふったらピッチャッチャン...」と、おじさんのおじさんは傘を開いてしまいます。

「おじさんのかさ」(作:佐野洋子)に出てくる言葉です。おじさんの一番の宝物、それは立派な傘。でも、大切にすくすく、一度も開いたことがありません。ところがある日、小さな男の子と女の子が傘をさしながら、それはもつ楽しんで歌っているのを聞いてしまいます。「あめがふったらポニポロロニ、あめがふったらピッチャッチャン...」と、おじさんのおじさんは傘を開いてしまいます。

「おじさんのかさ」(作:佐野洋子)に出てくる言葉です。おじさんの一番の宝物、それは立派な傘。でも、大切にすくすく、一度も開いたことがありません。ところがある日、小さな男の子と女の子が傘をさしながら、それはもつ楽しんで歌っているのを聞いてしまいます。「あめがふったらポニポロロニ、あめがふったらピッチャッチャン...」と、おじさんのおじさんは傘を開いてしまいます。

読書タイム

市内の学校・園・施設の子どもと読書をお楽しみました

古井小学校では、年二回「図書館まつり」を行っていただきます。その期間中、家庭では、「ふれあい読書週間」として、読書を通して、親子や家族のふれあいを深めることを大切にしています。「ふれあい読書カード」に読んだ本の名前や一口感想を書き込んだりして取り組んでいます。

図書委員会では、「手作りしおり」を作成したり、「読書の実」「パズル」「絵文字スタンプ」等の活動を行ったりして、全校児童が楽しんで図書館を利用して、本に親しめるように工夫しています。

また、期間中の朝活動の「全校読書」の日には、校長先生、教頭先生をはじめフリーの先生や担任以外の先生に、全クラスが先生のおすすめの本の「読み聞かせ」をしてもらいます。子供たちは、自分たちの担任以外の先生にも本を読んでもらえることを、



<図書委員会の手作りしおり>

新鮮な気持ちで楽しみにしています。図書館には、全校の先生が絵と文章で描いて下さった「おすすめの本」コーナーも設けてあります。〇〇先生の



<先生のおすすめの本>

◇◇◇の本は、どこにあるかなあと、図書館内をさがす児童もいます。ロング昼休みの「お母さんたちの読み聞かせ」の時間も、子供たちには、大人気です。低学年児童は、担任の先生と一緒に読み聞かせの音楽室に行けることを、毎回、ワクワク楽しみにしています。

六月と十一月の「図書館祭り」の時期に合わせて、貸し出しが間に合うように、毎年、新刊図書を司書の先生に登録等準備してもらっています。今年も、新刊貸し出し開始の前に、図書館の前の廊下に長机を置いて、「新刊紹介コーナー」を設けていただいたら、子供たちの興味関心が一層高まり、借りられる日を心待ちにしている見に来て



<新刊紹介コーナー>

います。これから「子供たちが大好きな図書館」になるように指導していきたいと思えます。

図書館クイズの答え
正解は③です。①は学校②は博物館を表します。なんだそのとおりだ！

えほん



「きみのままでいいんだよ」
エミリーオ・ウルベルアーガ／作
フォレスト・ブックス 一四七〇円
「しまうまだったらよかったのに。短い首のほうがいいもの。」と、きりん。「つばさがあったら、わしのようにはばたけるのに。」と、わに。ジャングルに住む女の子サラは、友だちのこんな願いについて一日中考え込みます。そして、夢の中で、いろんな動物をませあわせて新しい生き物をつくる巨大な機械を発明します。さて、その機械でサラがつくった生き物とは…。

物語

「やまんば妖怪学校」
末吉暁子／作
偕成社 一〇五〇円

クンは、お手！も、まて！もできないイヌでした。大好きなみかちゃんにも「だめなイヌね」と言われてしまいます。なんとかりつばなイヌになって、みかちゃんにほめられたと思ったクンは、やまんば妖怪学校に入学することになりました。ねこのブニヤと、かっぱのカブーと一緒に修行をはじめましたが、さて、クンはりつばなばけいぬになれるでしょうか。



やまんば妖怪学校シリーズで③までありますよ。

小説



「フングリコングリ」
岡田 淳／作 偕成社 一〇五〇円
放課後、図工室で仕事が一段落したばかりのところへシジミチヨウやほかの珍客たちがやってくる。せがまれて話して聞かせた、ちよっと不思議で愉快な学校のできごとの話が六話。表題作は、フングリコングリという指遊びしているうちに教室の天井を突き抜けてどんどん上がっていつちやった一年生のお話。

この本読んでみて！

えほん

「みんな絵本から」
柳田 邦男／著
講談社 二二六〇円

本来、人は人とのかわり合いの中で生きてきました。そこでは人間同士の生身の接触、肉声によるコミュニケーションを通して、他者をいたわる感覚やいのちを愛しむ感性が育ってきたのです。ところが、今は便利で簡単にネットが日常生活に入り込み、人として大切にしていたものが失われようとしています。「ケータイ、ネットより絵本をこの本には人として生きていくための処方箋がぎゅっ詰まっています。」



みんな絵本から